

(5) 質問4 (事前調査では質問3)

午前の小グループ活動(レクリエーション)はどれくらいの時間がよいですか。

1. あと()分間増やしてほしい
2. 今ぐらいの時間がちょうどよい
3. あと()分間減らしてほしい

自由に記述された時間数を表にすると、次のようになった。

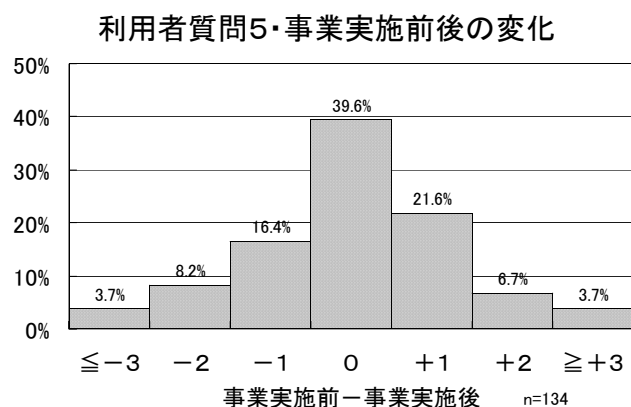
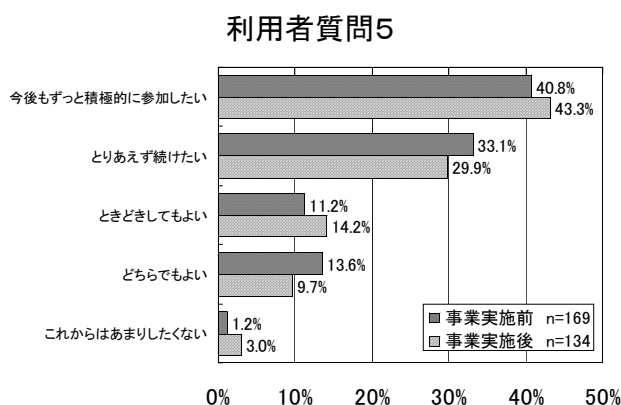
	事業実施前 n=169	事業実施後 n=133
60分以上増やしてほしい	0.6%	2.3%
30分以上60分未満増やしてほしい	5.3%	1.5%
1分以上30分未満増やしてほしい	3.0%	2.3%
今ぐらいの時間がちょうどよい	89.3%	92.5%
1分以上30分未満減らしてほしい	0.6%	0.7%
30分以上60分未満減らしてほしい	0.6%	0.7%
60分以上減らしてほしい	0.6%	0%

	人 数	向上した者の割合	維持した者の割合	低下した者の割合
合 計	133 人	6.8 %	81.2 %	12.0 %

(6) 質問5（事前調査では質問4）

小グループ活動（レクリエーション）は、今後どうしたいですか。

1. 今後もずっと積極的に参加したい
2. とりあえず続けたい
3. ときどきしてもよい
4. どちらでもよい
5. これからはあまりしたくない



利用者ごとの変化量は、「『事前調査の回答の選択肢の番号』 - 『事後調査の回答の選択肢の番号』」により算出した。（以下同じ。）

		人数	向上した者の割合	維持した者の割合	低下した者の割合
合計		134人	32.1%	39.6%	28.4%
グループ別	ゲーム機器等活用	28人	21.4%	50.0%	28.6%
	物品作成等	50人	40.0%	40.0%	20.0%
	その他	56人	30.4%	33.9%	35.7%
男女別	男	37人	37.8%	32.4%	29.7%
	女	97人	29.9%	42.3%	27.8%
要介護度別	要支援～要介護1	85人	34.1%	42.4%	23.5%
	要介護2以上	49人	28.6%	34.7%	36.7%
認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	該当なし又はランク	100人	35.0%	41.0%	24.0%
	ランク以上	34人	23.5%	35.3%	41.2%
施設別	天橋の郷	52人	42.3%	36.5%	21.2%
	亀岡あゆみ	52人	28.8%	38.5%	32.7%
	西小倉	30人	20.0%	46.7%	33.3%

事後調査では、事前調査と比較して「今後もずっと積極的に参加したい」「ときどきしてもよい」「これからはあまりしたくない」が増加し、「とりあえず続けたい」「どちらでもよい」が減少した。

利用者ごとの変化量の集計を見ると、改善した割合の方が低下した割合よりも上回っている。このことから、モデル事業実施により活動意欲が向上した利用者が多かったものと推察される。

対象者別に向上した者の割合を見ると、グループ別で物品作成等グループが40.0%、男女別で男が37.8%、要介護度別で要支援～要介護1が34.1%、認知症の程度別で該当なし又はランクが35.0%となった。

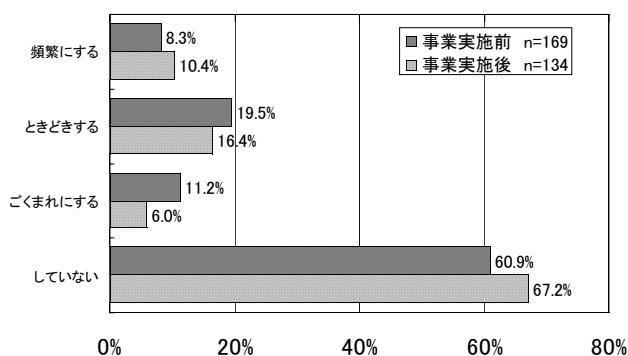
(7) 質問6 (事前調査では質問5)

小グループ活動(レクリエーション)のようなことは、自宅でもしていますか。

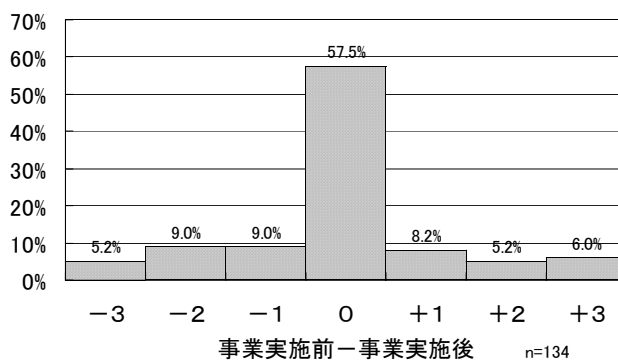
1. 2. 3. 4.

頻繁にする ときどきする ごくまれにする していない

利用者質問6



利用者質問6・事業実施前後の変化



		人数	向上した者の割合	維持した者の割合	低下した者の割合
合計		134人	19.4%	57.5%	23.1%
グループ別	ゲーム機器等活用	28人	7.1%	75.0%	17.9%
	物品作成等	50人	28.0%	52.0%	20.0%
	その他	56人	17.9%	53.6%	28.6%
男女別	男	37人	18.9%	62.2%	18.9%
	女	97人	19.6%	55.7%	24.7%
要介護度別	要支援～要介護1	85人	22.4%	51.8%	25.9%
	要介護2以上	49人	14.3%	67.3%	18.4%
認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	該当なし又はランク	100人	22.0%	55.0%	23.0%
	ランク以上	34人	11.8%	64.7%	23.5%
施設別	天橋の郷	52人	21.2%	57.7%	21.2%
	亀岡あゆみ	52人	17.3%	53.8%	28.8%
	西小倉	30人	20.0%	63.3%	16.7%

事後調査では、事前調査と比較して「頻繁にする」と「していない」が増加した。

なお、同様の質問である家族質問7では、「ときどきする」も増加している。

このことから、利用者自身は意識せず、モデル事業が自宅での活動の継続につながったものと推察される。

対象者別に向上した者の割合を見ると、グループ別で物品作成等グループが28.0%、認知症の程度別で該当なし又はランク が22.0%となった。

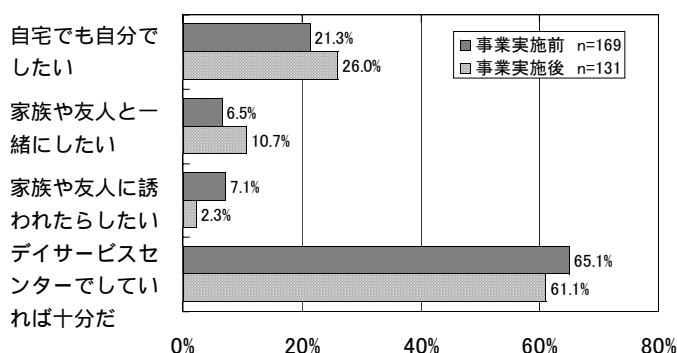
なお、要介護度別では、向上した者の割合を見ると要支援～要介護1が22.4%、向上した者の割合と維持した者の割合の合計を見ると要介護2以上が81.6%となった。

(8) 質問7 (事前調査では質問6)

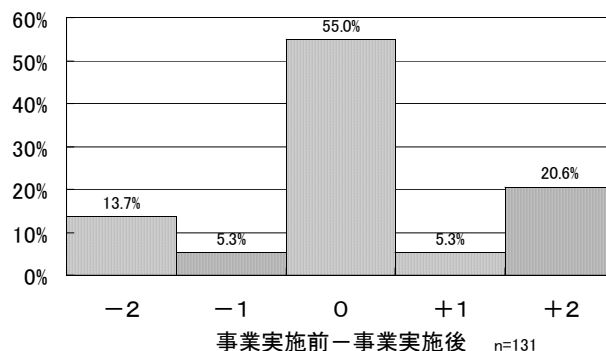
小グループ活動(レクリエーション)のようなことは、自宅でどんなふうにしたいですか。当てはまる項目1つに を付けてください。

1. 自宅でも自分でしたい
2. 家族や友人と一緒にしたい
3. 家族や友人に誘われたらしたい
4. デイサービスセンターでしていれば十分だ

利用者質問7



利用者質問7・事業実施前後の変化



選択肢1と2との間は差異なしとみなした。

		人数	向上した者の割合	維持した者の割合	低下した者の割合
合計		131人	26.0%	55.0%	19.1%
グループ別	ゲーム機器等活用	28人	28.6%	46.4%	25.0%
	物品作成等	50人	26.0%	60.0%	14.0%
	その他	53人	24.5%	54.7%	20.8%
男女別	男	36人	27.8%	61.1%	11.1%
	女	95人	25.3%	52.6%	22.1%
要介護度別	要支援~要介護1	82人	26.8%	53.7%	19.5%
	要介護2以上	49人	24.5%	57.1%	18.4%
認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	該当なし又はランク	97人	29.9%	51.5%	18.6%
	ランク 以上	34人	14.7%	64.7%	20.6%
施設別	天橋の郷	52人	23.1%	53.8%	23.1%
	亀岡あゆみ	49人	20.4%	57.1%	22.4%
	西小倉	30人	40.0%	53.3%	6.7%

事後調査では、事前調査と比較して「自宅でも自分でしたい」「家族や友人と一緒にしたい」が増加し、「家族や友人に誘われたらしたい」「デイサービスセンターでしていれば十分だ」が減少した。

対象者別に向上した者の割合を見ると、認知症の程度別で該当なし又はランク が29.9%となった。また、向上した者の割合と維持した者の割合の合計を見ると、グループ別で物品作成等グループが86.0%、男女別で男が88.9%となった。